

ある町の天気相談所

Vol.08
2018.8.3

平成30年 8月号



7月の記録的な高温

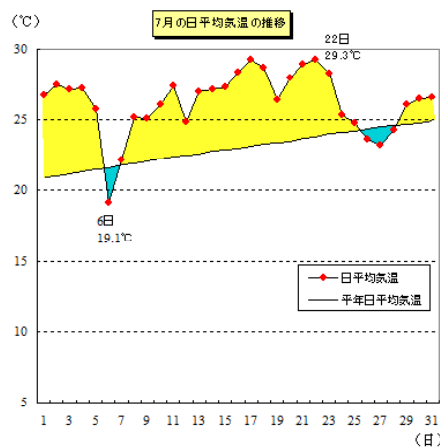
6月29日の平年より22日も早い梅雨明け（速報値）から、太平洋高気圧と大陸からの高気圧が日本付近を重ねて覆い、6月や7月の記録を更新する暑さとなりました。特に6月下旬と7月中旬は気温が高くなりました。6月30日には過去もつとも早い熱帯夜（前日夜から当日朝の最低気温が25℃以上の日）を観測し、7月の熱帯夜日数は6日と7月として最も多くなるなど、最も気温が高い8月と比較しても高い気温が7月に観測されました。

- 高い方から1位の記録更新
- 6月日平均気温 28・4℃ 29日
- 7月平均気温 26・2℃
- 7月最低気温平均 23・1℃
- 7月日最低気温 26・4℃ 17日
- 7月の熱帯夜日数 6日

7月の気候

7月は、平均気温が26・2度と平年よりかなり高くなりました。最高気温の平均も7月の2位の記録となりましたが、特に最低気温が高い日が多かったのが特徴で、7月17日に観測した最低気温は7月は1位、年間を通して過去3番目に高い最低気温でした。

日照時間は154・5時間と平年の1・2倍でしたが、降水量は100・5ミリと平年の62%しかなく、少なくなりました。



1カ月予報（気象庁発表）

8月は、平年と同様に晴れの日が多く、気温は高く、降水量、日照時間は平年並みの予想で、特に前半の気温はかなり高くなりそう。日々の日立市の天気予報は、天気相談所から毎日発表しています。

天気相談所のあゆみ

日立市内の豪雨

「平成30年7月豪雨」（気象庁命名）が発生し、四国で1800ミリ、広島県で6000ミリの雨が降り、西日本を中心に大きな被害が発生しました。今回は、歴史をお休みして、日立市で過去に観測された豪雨についてお知らせします。

天気相談所誕生（1952年）から、最も多い降水量を観測したのは、1961年（昭和36年）6月26日から30日の梅雨前線による雨で、総降水量が344・9ミリを記録しています。この時は土砂崩れや浸水が発生し、なくなられた方もおります。

天気相談所誕生前も神峰山観測所における、1910年からの記録があり、その記録を調べてみると、1938年（昭和13年）6月8日から7月8日の間に、680ミリ、1941年7月にも547ミリ、1947年9月のカスリーン台風の際には414ミリという記録があります。久慈川の堤防決壊や、土砂崩れ、浸水など大きな被害が発生しています。過去にはこのような豪雨が発生しており、今後、これらを越えるような豪雨も発生するかもしれません。

天気の用語の基礎知識

猛暑日

日の最高気温が35度以上になった日を猛暑日といいます。今年は全国的に猛暑日が多く、7月23日には、41・1度を埼玉県熊谷市で観測し、5年前の高知県での日本の最高気温の記録を更新しました。日立市においても、7月22日、23日に十王交流センターなどで35度を超えています。日立市において猛暑日は昭和27年の観測開始から39日あり、2002年8月8日から11日において4日連続で猛暑日となったこともあります。

神峰の山から

2016年6月8日、おべんとうハンターこと写真家の阿部了さんとライター阿部直美さんが天気相談所に取材に入り、その年8月の全日空の機内誌の「おべんとうの時間」に掲載されました。当時筆者は、おべんとうではなかったため、予報士Eが掲載されました。このたび、単行本になったと連絡があり、内容を確認すると、機内誌の時は写っていないかった筆者が、なんと片隅に写っておりませんでした。ちなみに、今年の7月の全日空の機内誌にはかみね動物園のマンドリルの記事が載っていました。